

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成2年3月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話(0867)66-3651

学 園

だ よ り



第1牧場より蒜山三座を望む

二十一世紀に向けて



校長 植月昌彦

卒業生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

本年は一九九〇年という、二十世紀最後の十年間のスタートの年でもあるわけで、この十年間は国際化のより一層の進展、安定と成熟の時代への移行、高令化社会から長寿社会への移行、さらには技術の高度化・多様化などが急速に進展するであろうと予測されています。

最近の酪農経営におきましても、計画生産の継続、乳価はどうか、消費拡大対策、受精卵移植の推進等による乳牛の能力向上、粗飼料対策、目前に迫っております平成三年四月からの牛肉自由化への対応、さらには、後継者や酪農ヘルパーをどのような手段で確保するのかなど関心事を列挙すれば、精神状態が変になりそうです。この地球上において、人間

という動物が生存する限り食糧に関連する産業ほど強いものは無いという鉄則があります。気迫を持って前進していけば、必ず明るい展望が開けると信じております。

当校も平成元年度で創立二十五周年という節目を迎えましたし、新しい酪農経営に対応できる後継者を養成するため、昨年度から、

- 一、長期的な展望に立った教育科目、教育課程の設定
 - 二、新しい技術などに対応できる魅力ある施設、設備の整備
 - 三、意識刷新と能力開発による教授陣の資質の向上
 - 四、簡素で効率的な運営体制の確立
- という視点で見直し作業を開始いたしております。既に一部の卒業生の方には御意見やアンケートをいただきましたが、更に御意見等をお聞かせ

くださればと思います。卒業生のみなさんも在学中は非常に活発であったと聞き及んでおりますが、四十数名の在校生も伝統は受け継いでおりまして、逞ましい後継者に育ってくださると信じておりますが、次のような感想文を書いてくれましたので御紹介をいたしておきます。

「この一年間、酪農高等学校で過ごし、酪農の勉強がしつかりできたと思う。またとても実践的で卒業して直ぐ使えそうなものが多く大変良かったと思う。入学後の四、五月は激変であったが、慣れてしまえばそうでもなかった。

また、暑さが残る九、十月はトウモロコシの収穫があり、「端刈」「中刈」を二十一世紀を先取りするような鎌という道具で刈ったこと。除草剤撒布で失敗したことなど、してはいけないことを身を持って教えていただき、とても良い勉強になったと思います。

さらにトラクターの練習場所もすばらしく、牽引のバックで第一牧場の牛舎内に入ることが出来るようになり、これならどこでもバックが出来そうです。

欲を言えば、設備をもっと頑丈にし、触れるだけ(?)でブロックが崩れたりすることのないようにして欲しい。

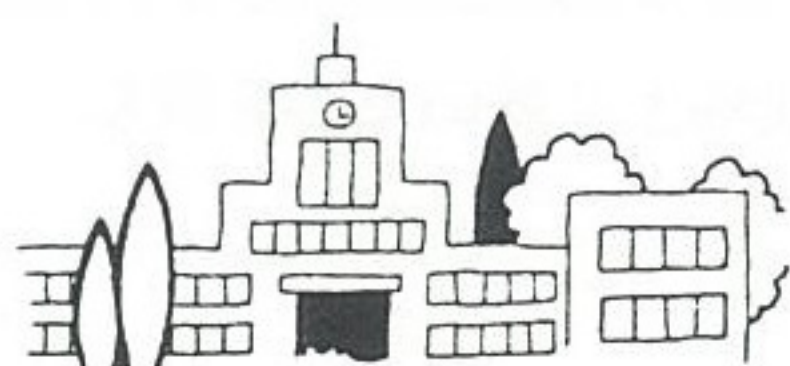
最後に、この学校は夏は涼しいし、冬はすぐスキーができるし、勉強は専門的且つ実践的で根性はつくし、体力はつくし、寮費・学費等は安いし、他の変な大学より良いと思っっている。」

終りになりましたが、機会を見て御来校をいただき酪農経営の近況をお聞かせいただきたい事と、みなさんの酪農経営が安定的な発展をされ、御健康に過ごされますよう祈念して筆を置きます。



も く じ

- ・巻頭言
二十一世紀に向けて
校長 植月昌彦…………… 2
- ・飼料作物
生育収量調査報告
〔Ⅱ〕…………… 3
- ・学生だより…………… 5
- ・卒業生短信…………… 5
- ・教務課だより…………… 7
- ・第一牧場だより…………… 8
- ・第二牧場だより…………… 9
- ・卒業生名簿…………… 10
- ・お知らせ…………… 10



飼料作物

生育収量調査報告〔II〕

昭和六三年一〇月から平成元年九月にかけて、トウモロコシ及びイタリアンライグラスの生育調査、収量調査を実施しましたのでその結果を報告します。

マニユアスプレッダーで堆肥を全面散布後、全面耕起、碎土、整地を行ない、一a当り堆肥二〇〇kgをすきこむ。前作は採草地であった。

② 播種期

平成元年五月一八日

③ 栽植密度

畝幅七〇cm、株間一八cmで一カ所二粒点播し、間引きして一カ所一本立てにした。(一a当り七九四本)

④ 施肥量

表一のとおり。

⑤ その他の管理

除草剤としてゲザノンフロアブルを散布したが、散布時に土壌が乾いていたためききが悪く、生育途中に畝間を手で除草した。

⑥ 収穫期

黄熟期刈り取り。

2 試験区
畝幅七〇cm×株間一八cmの一区一二・〇四²m²、二反復とし、畝の両端五〇cm以上、各区の両端一畝を除いて調査区とした。

3 耕種概要
① 耕起、碎土、整地

調査結果及び考察
(表二のとおり。)

1. 発芽ではNS68とP3160が他の品種と比べてやや劣っていた。NS68は前回は発芽が悪かった。

2. 生育初期は気温が上がらず寒い日が続いたが生育はまずまずだった。

3. 雄穂抽出期は、七月二十八日から八月六日まで、雌穂抽出期は、八月四日から、八月一三日までであった。

4. 刈り取り時に、雨が長期間ふり早生種については刈り遅れた。

雪 印
ワセキング
ヒーロー
テトリライト
タチワセ
エース
ワセアオバ

播種から発芽まで九〜一〇日間を要した。

○日間の良否については、前年同様エバーグリーン、エースが不良であった。

4. 収穫は、三回実施した。収量は、ミドリホープ、ヒタチアオバ、トップが多収であった。

(イタリアンライグラス)
試験方法
1 供試品種
日本総業 メリット
カネコ ミドリホープ
タキイ ジャイアント
ジャイアント
トップ
ジャイアント

調査結果及び考察
(表四のとおり。)

1. 昭和六三年一〇月三日に播種して、一〇月一二日一〇月一三日に発芽期に達した。



以上、トウモロコシとイタリアンライグラスの生育収量調査結果をお知らせしましたが、まだ調査をはじめて二年目で、成績の信頼度も十分とはいえません。

今後、これらの品種について試験を実施し、結果がまとまりましたら学園だよりで報告したいと思います。

表1 トウモロコシ施肥量

(kg/a)

	溶磷	複合 磷加 安	尿素	塩加 カリ	肥 料 成 分			備 考
					N	P	K	
基肥	3.0	8.0			1.12	1.24	1.12	
追肥			2.2	1.7	1.0		1.0	7月11日

表3 イタリアンライグラス施肥量

(kg/a)

	苦土 石灰	苦土 重焼 磷	牧草 259	尿素	塩加 カリ	備 考
基肥	16	32	12			
追肥				2	2	各刈取り毎

表2 トウモロコシ生育調査結果

品 種	発 芽 期	発芽の 良 否	初 期 生 育	収 穫 時 期	熟 度	草丈及び着雌穂高		生草収量 (kg/a)		
						着雌穂高、草丈 (cm)		莖葉	雌穂	合計
X L 6 1	5月30日	良	良	9月25日	完熟期	101	267	176	413	589
N S 6 8	5月29日	やや良	良	9月25日	完熟期	101	243	151	335	486
タカネワセ	5月27日	やや良	良	9月25日	完熟期	113	254	151	482	633
P 3 7 3 2	5月30日	やや良	良	9月25日	完熟期	98	233	158	373	531
P 3 3 5 8	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	97	264	186	458	644
G 4 6 1 4	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	120	272	165	393	558
E 7 3 2 1	5月30日	やや良	良	9月25日	完熟期	107	280	153	373	526
D K 7 8 9	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	117	287	192	463	655
D K 6 9 8	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	103	265	177	382	559
T X 7 4	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	111	271	162	480	642
タカネミドリ	5月29日	良	良	9月25日	完熟期	108	273	182	464	646
P 3 1 6 0	5月30日	やや良	良	9月25日	黄熟期	121	276	169	418	587

表4 イタリアンライグラス生育調査結果

	発 芽	刈 取 期	倒 伏	草 丈 (cm)	生草収量 (kg)			
					1回目	2回目	3回目	計
タ チ ワ セ	10/12	5/ 9 6/12 7/15	少 無 無	114.0 67.5 65.5	593.3	143.3	39.9	776.5
メ リ ッ ト	10/12	5/16 6/14 7/19	中 無 無	105.9 59.9 71.7	585.2	161.0	64.7	810.9
ワ セ ア オ バ	10/12	5/ 9 6/12 7/15	少 少 無	99.9 78.5 75.6	553.3	194.9	76.6	824.8
ワ セ キ ン グ	10/12	5/22 6/21 7/19	少 無 無	110.8 67.5 67.0	511.6	81.6	73.3	666.5
ヒ タ チ ア オ バ	10/12	5/22 6/21 7/19	中 無 無	107.4 81.4 78.5	646.6	321.6	96.6	1,064.8
ミ ド リ ホ ー プ	10/12	5/22 6/14 7/19	中 無 無	100.7 73.2 80.0	736.7	217.3	75.5	1,029.5
ト ッ プ	10/12	5/21 6/26 8/ 8	中 少 無	87.7 82.1 59.3	656.8	218.8	64.5	940.1
ヒ ー ロ ー	10/12	5/22 6/26 8/ 8	中 少 無	99.3 80.8 65.7	543.8	213.3	100.3	857.4
エ ー ス	10/13	5/22 6/26 8/ 8	少 無 無	101.5 73.8 59.2	478.3	163.3	83.3	724.9
エ ー グ リ ー ン	10/13	5/22 6/26 8/ 8	少 無 無	90.3 69.1 61.4	516.7	142.5	68.5	727.7
タ キ イ ジ ャ イ ア ン ト	10/12	5/16 6/21 7/19	中 無 無	94.7 79.4 54.8	603.3	184.9	43.3	831.5
カ ネ コ ジ ャ イ ア ン ト	10/12	5/ 2 6/14 7/19	少 無 無	101.3 61.0 82.2	599.5	168.5	63.8	831.8

学 生 だ よ り

卒業にあたって

二四期生 和田 慎 吾

早いもので、二年間の学生生活があつという間に過ぎてしまいました。

私は、この二年間の学生生活は、本当に充実し、将来の自分の夢を実現する能力が身に付いたと思います。入学した頃は、本当に変わった学校というイメージがあつたのですが、実習、学習を積み重ね、生活する上で、本音で話し合う事のできる友人や先生ができました。そんな人と人との結び付きがある中で、自信と誇りがもてるようになったと思います。

私は後継者として頑張るわけですが、酪農は難しい職業です。時にはくじけそうになるかもしれないけれど、自分が好きで選んだ職業だから、一生懸命努力したいと考えています。

たしかに、農業の停滞している今の時代に、後継者として踏み出すのは勇気がいるけ

れど、数多くの先輩方を手本とし、励みとして、一步一步、あせらず、確実に自分のイメージしている経営を築いていきたいと思っています。

学校の先生方には、ご迷惑をおかけしてしまいました。これからも酪農大学校でしか

ないすばらしさを守っていただき、すばらしい酪農後継者を育ててもらいたいと思いません。二年間本当にお世話になり、ありがとうございました。

最後に、先生方や数多くの先輩方、同期生、後輩の方の健康とご多幸をお祈りすると共に、母校、中国四国酪農大学校の発展を心からお祈りいたします。

今 思 う こ と

二五期生 多 鹿 敦

この学校に入学して、早や一年が過ぎようとしています。入学時と現在の物の考え方はかなり違って来たと思います。以前より丸く、おだやかに考えることができるようになったと思うし、酪農についても、我家の経営状態がわかるようになったと思います。

二年生では、校外研修に出ますが、今、我家の経営に何が不足しているか、どうすれば良くなるかを頭に置いて、先進酪農家と比較しながら、

現実的な勉強をしてくるつもりです。そのため、研修農家も、自分の目標と合致したところを選びました。

この一年は、私が単なる酪農後継者から、かなり酪農家に近づいたような気がしています。これも、実践的な授業を一年間受けたからだだと思います。後一年で、できるだけ多く学び、できるだけ多くの人と接し、そして、人工授精と受精卵移植の免許試験に合格したいと考えています。

卒 業 生 短 信

二期生 服 部 靖 義

私が本校へ入学したのは昭和四一年四月で、昭和四三年三月の卒業です。我々二期生は二九名の卒業だったと思います。早いもので、あれから二二年も過ぎ、酪農事情も随分変りましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。当時を振り返ってみますと、

前期はまだ学校の一部が建設途上であり、第一牧場のパーラーが工事中のため、移動式のパーラーをパドックの角に置いて搾乳していました。梅雨時期などパドックがぬかるみ、乳房等が泥んこになる上に、パーラーに牛を追い込むのも一苦労したものです。また、



中央が筆者

あの年は北海道より十数頭の導入があり、粗飼料不足のため、蒜山の裾野に野草刈りに行ったこともありました。その野草に混入していたワラビが原因と思われる中毒症状の牛が数頭死亡したり、導入牛の殆んどが早産・流産をし、徹夜の見回り看病をしたことなど、今となっては良き思い出となっています。

また、後期は、かつてない豪雪の年で、寮の屋根の雪おろしで苦労したことを覚えています。とりわけ、第二牧場の牛乳の出荷は鮮明に脳裏に焼きついていきます。スキーを滑り、上福田まで大ゾリに二斗缶十五本を積んで、ロープをつけて十人位で引いたり押したりしたこと、また、帰りにはその二斗缶を背負って、滑ったり転んだり悪戦苦闘したことなど、除雪機のできた今思えば嘘のような話です。また、草地の雑草除去など、食前作業としてよくしたものです。そうした寮生活での学習、実習、研修等が私の財産となつて現在の経営があることに感謝しております。

さて、現況を少し書いてみますと、卒業後は畑作（蒜山大根）と酪農二〇頭の複合経営

営を続けていきましたが、昭和六〇年に公社畜産基地建設事業に取組み、畜舎、飼料庫、堆肥舎、スチールサイロ、大型機械、牛の導入を実施し、酪農専業経営を遅れながらスタートしました。

現在では、ホルスタイン種成牛四〇頭、育成牛二五頭ですが、労力は二人でやっています。ただし、乾草時期には両親が手伝ってくれます。経営面積は、借地を含め一五ha、内一haは乾草用草地、残り四haはとうもろこしを作付けしてサイレージとしています。その他、堆肥交換で稲わら五haを確保しています。また、購入飼料は、配合、外麦、ビート、ルーサンペレット、綿実等一般的なメニューです。

なお、春から秋にかけては乾草調整、とうもろこしの刈取り・詰込など多忙な毎日ですが、一昨年より蒜山酪農ヘルパー組合が誕生し、月一回の休日もできるようになりました。また、冬期は朝夕の管理の他は好きな本を読んだり、結構のんびり骨休みをする今日頃です。さらに、乳牛改良同志会にも入会しており、これから地区のBWショー、ホクラクスプ、グショー、

中四国BWショーなど、優れた牛を見てまわるのを楽しみにしています。

酪農経営のポイントもいろいろありましようが、「改良」、即ち、稼ぐ牛作りが最大のポイントであろうと思っています。そこで我家の今後の課題としては、後継者、育成牛の開放牛舎、さらに乾乳牛の開放牛舎を建設すべく考えているところがあります。

最後になりましたが、酪農大進校へ在学中あるいは入学される酪農後継者のみなさんには、「牛を先ず好きになれ」の一言を送りたいと思います。そして、卒業生のみなさんのさらなる御活躍を御祈りし、「短信」とします。

七期生 美 甘 泰 治

ここ数年異常気象が続いていますが、蒜山でも近年雪が少なく、特に今冬は暖かく、まだ二月だというのに雪は山に見えるだけで早や春の気配です。この裏か？夏場の天候は不順で、乾草になり損ねた敷わらが多く取れます。それでも今年こそはと、ツバメが来、ウグイスの声を耳にする

近頃はより旨い物が好まれるグルメ嗜好となり、ジャーシー牛乳も注目を浴び、牛乳をはじめジャーシー牛乳から造られたヨーグルト、チーズ、アイスクリームなど人気があります。

我家では現在、成牛四八頭、育成牛二二頭の合せて七〇頭のジャーシー牛を飼養しています。飼料作付面積一五haはほとんどが借地の為、圃場が広範囲に分散しているので作業効率が悪く、労力も夫婦二人なので思うように作業ははかどりません。今後、圃場の集約化と一層の機械化により、適期作業による良質粗飼料の確保と労力の軽減を図って行きたいと考えています。

最近、農産物の自由化という外圧と消費者の立場からの価格面での内圧とで、農業の危機感、焦りをあおる記事が目立つばかりで、将来の展望も無く、天気相手の農業を企業の生産効率と同じものさしで計り、産地間競争、生産調整、高品質、コストの低減と、問題を一方的に農家に押し付けて、問題の解決を農家の努力に期待すると云った感じがします。だんだん腹が立って来ま、、考えて見ると、今

が大きな転換期で、これからの時代はこの様な事が当り前と受け止めてやっけて行くしかないように思われます。

幸い、土地条件、そして、酪大卒業の先輩、後輩の多い恵まれた蒜山で、より品質の良いものを需要期に低コストで生産する事を心がけて、経営の改善に努力して行きたいと思えます。

・学校での思い出
卒業して一六年になります、当時は第一、第二牧場ともフリーバーン牛舎で、糞出しはホークとスコップの大海戦術で、実習と云えば毎朝のそれが一番印象に残っています。

作業機は初めて見る様な物まで揃っていましたが、手による作業がほとんどだった様な気がします。何の抵抗も無く賑やかに結構楽しくやっています。

寮生活は、世間とは隔離された世界で、一生分の暇をあの頃まとめて取ったと云う感じで、何かする事が他にありません。ただろうにと思えます。

・後継者への一口アドバイス
若いうちに研修なり趣味、遊びに目一杯チャレンジし、そして夢を持つべきです。

教 務 課 だ よ り

酪大の頃、先生が「若い時は体力で稼げ、年を取ったら

頭で稼げ」と言われた事を覚えていますが、体力が怪しく

なりかけ、頼りにならない頭では、どうやらこの先、女房

の体（子供達の手数があてになりそうです）

最後に、卒業生の御活躍を心よりお祈りします。

○卒業証書授与式

三月二八日、第二三期生の卒業証書授与式が挙行され、希望に燃える若者一八名が本校を巣立っていった。

○第二五期生入学式

四月五日、新たな時代の酪農を担う若者二一名が入学した。新入生の出身地は、中国及び兵庫県の各構成県に加え、長崎、和歌山、大阪などであった。

○レクリエーションの実施

学生間及び職員との親睦を深めるために、毎月一回ソフトボール、バレーボールなどの球技大会を実施した。又、自然と触れ合うために恒例となっている蒜山登山の実施（六月）、地域住民との交流を図るために地元バレーボール大会への参加及び老人クラブとのゲートボール大会の開催を行なった。

○家畜人工授精及び受精卵移植講習会

昭和六三年十二月から家畜人工授精講習会が、平成元年二月から受精卵移植講習会が開催された。

本校からも第二三期生が人工授精講習会に十八名、受精卵移植講習会に十六名が受講し、それぞれ十七名、十一名が合格した。

○修学旅行

第二四期生は、十二月沖縄に行った。皆、学生最後の旅行を充分に楽しんだようである。

○特別講義の実施

学生の一般教養を高めるために、次のような広範囲にわたる分野の特別講義を実施した。

【六月】

「岡山県における国際交流」
国際交流課
P・A・クンストラー氏

【十一月】

「ジャージー講演会」参加

【十二月】

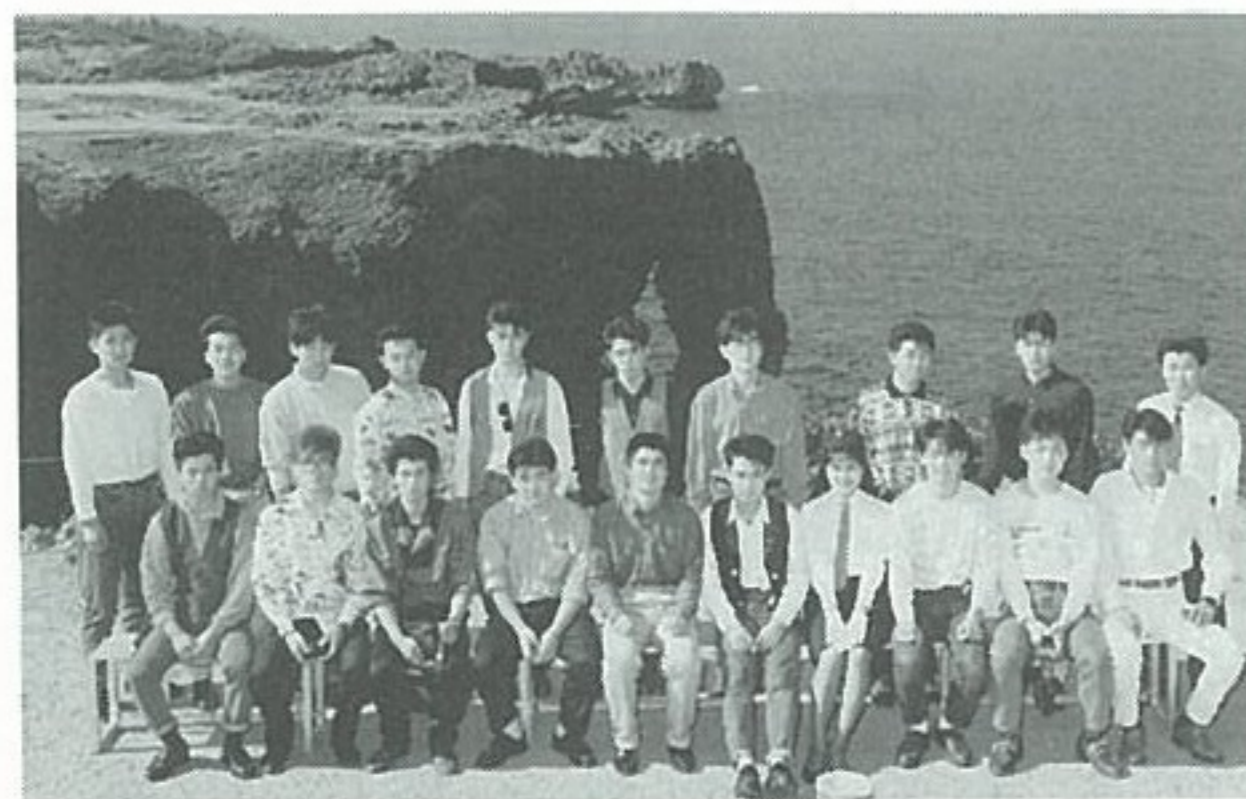
「蒜山の自然について」
写真家 徳山蒜天氏
「削蹄技術について」
津山市 吉原輝夫氏
「テンプルマナー」
述学園蒜山自然休暇村

○校外視察

広く校外に教育の機会を求めて、平成元年四月に開場した岡山県総合畜産センター、種雄牛センター、雪印乳業津山工場の外、ホクラク、岡山県畜産共進会等視察を行なった。



蒜山登山



中国四国酪農大学校 沖縄旅行記念
平成元年 12月6日 於万座毛



特別講義（国際化について）
P・A・クンストラー氏

- 【七月】 「畜舎施設設計について」 東伯町講演会参加
- 【八月】 「農業の使命」 岡山県農林部 信朝部長
- 【九月】 「岡山県の家畜衛生」



卒業生の皆さん、元気で過ごしてください。

昨年、一昨年とも雪の少ない冬で、今年も暖い冬が続きました。三年続きの暖冬と思っていたところ、平成二年の年始より大寒波と大雪が到来し、久しぶりに蒜山の冬を満喫しました。しかし三月に入ってから、草地の雪も消え、春の訪れを感じさせる天気が続いています。

さて、第一牧場では、四月の職員異動で竹内先生が退職され、後任として教務課より秋山先生が配属されました。ベテランの樋口先生ともども教務課の協力を得ながら頑張っていますので、お近くにおいでの際は気軽に立寄り下さい。

表1 飼養頭数

	搾乳牛	乾乳牛	小計	未(19ヶ月以上)経産牛	育成牛			小計	飼直牛	肥育牛	合計
					12~18ヶ月	6~11ヶ月	6ヶ月未満				
平成3年度元月1日現在	25	2	27	12	13	4	2	31	5	69	132
平成2年度3月1日現在	32	5	37	8	2	7	8	27	2	92	156

○飼養状況
平成元年及び二年の三月一日現在の飼養頭数を表一に示しました。平成二年三月一日現在で、経産牛は搾乳牛が三二頭、乾乳牛五頭、あわせて三七頭、未経産牛八頭、育成牛一七頭、飼直牛二頭、肥育牛九二頭の合計一五六頭となっております。前年の同日と比較し、二四頭の増加となっております。この頭数増は主として経産牛頭数及び肥育牛頭数の増加によるもので、それぞれ一〇頭及び二三頭の増加になっております。特に肥育牛については、昨年新設された肥育牛舎二棟は現在満タンの状態となっており、来年度の本格的な出荷を待っています。

表2 生乳生産状況

	61年度	62年度	63年度	元年度*
1日平均搾乳牛頭数(頭)	29.7	26.5	27.9	29.3
1日平均搾乳量(kg)	564.6	568.4	575.0	594.9
1日1頭当たり搾乳量(kg)	19.0	21.4	20.5	20.4
年間生産乳量(kg)	206,218.4	207,844.0	209,848.9	(197,539.8)

* 平成2年2月末現在

○生乳生産状況
過去四年間の生乳生産状況を表二に示しました。生乳生産量は年々増加しており、本年度は年間生産乳量が二一萬kgを越える見込みです。また平成二年二月下旬に、一日生産乳量は過去最高の八七二kgを記録し、さらに乳質についても、脂肪率三・八五%、無脂乳固形分率八・九三%、細胞数四万二千、細菌数〇という良好な結果となっております。牛群改良、飼養管理等日頃の努力が実を結んだものと、手前味噌ながら喜んでおります。

○パドックの改修

従来より傷みの激しかった搾乳牛舎及び育成A牛舎付属のパドック柵を改修しました。パドックには暗きよを埋設し、水はけを良くするとともに、コンクリート部分の補修を行いました。これによりパドックの景観は一新され、また、除糞作業もスムーズに行えるようになりました。

○トウモロコシ作付面積の拡大

従来採草地として利用されていた一牧地(〇・六ha)を



第1牧場放牧風景

飼料畑とし、サイレージ用トウモロコシを作付しました。このことにより約二四tの収量増となり、通年サイレージ給与実施のために役立ちました。このことも前述した乳質の向上に一役買っているものと思われまます。以上、第一牧場の近況をお知らせします。



本年は酪大勤務歴五年の名越場長と中村・江田の若手獣医二名を新たに迎え、常時七名の職員体制となりました。この充実した体制により牧場の経営能力の向上をめざして職員一同頑張っています。

また第二牧場は、一般に開かれた牧場でなければならぬとの考えから、観光客を含めた視察の方々を積極的に受け入れるようになりました。今夏は、観光客がポプラ並木を散歩する姿も見られ、今までとは少し違ったイメージの牧場になりつつあります。そして環境整備の面でも、道路・作業道側にはヒマワリ・コスモス等の季節の花を植えています。また、第二牧場の職員公舎二棟を整備し、江田・



第2牧場ポプラ並木

中村が住むようになりました。

○飼養状況

平成二年二月一日現在の飼養頭数は表一のとおりで、経産牛八五頭・未經産牛一六頭・育成牛三四頭の合計一三五頭となっています。

○生乳生産状況

牛群検定成績を表二に示しました。平成元年(平成二年二月現在における過去一カ年)の総乳量は約三七万kgで、前年対比二七・八%の増加になっています。これは、搾乳牛頭数の増加(六・一頭増)、搾乳牛一日二頭乳量の増加(一・一kg)によるものです。乳脂率・蛋白質率も改善され、それぞれ五・〇三%(対前年比一〇七・〇%)、三・七七

% (対前年比一〇二・二%) となっています。

表1 飼養頭数

(平成2年3月1日現在)

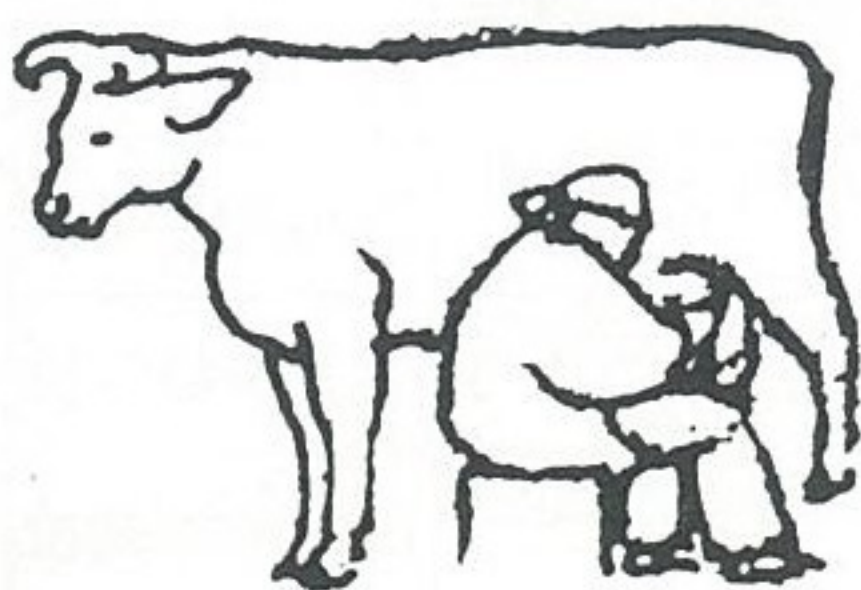
区分	搾乳牛	乾乳牛	小計	未經産牛 (19以上 12以下)	6~11カ月	6カ月未満	飼直し	小計	合計	
雌	77	8	85	13	17	6	15	2	53	138
雄			0				2	2	2	
計	77	8	85	13	17	6	17	2	55	140

表2 牛群検定成績

	63年	元年
平均経産牛頭数(頭)	79.2	85.7
平均搾乳牛頭数(頭)	68.1	74.2
総乳量(kg)	313,951	369,783
経産牛年間乳量(kg)	3,965	4,315
搾乳牛年間乳量(kg)	4,610	4,984
平均分娩間隔(日)	420	403
平均年令(才)	4才8月	5才4月
平均産次(産)	3.3	4.0
平均乳脂率(%)	4.70	5.03
平均蛋白質(%)	3.69	3.77
平均無脂固形分(%)	9.26	9.26

○施設等

施設、建物等大きな整備はありませんが、各建物の屋根、壁を赤色に、パーラー内をクリーム色に職員、学生で塗り直しました。また、パーラーはかなり老朽化してきましたが、整備・点検を励行してまだまだ現役で活躍させています。



平成元年度（第25期生）入学者名簿

昭和63年度第23期生卒業証書授与者名簿

第24期生在学者名簿

お知らせ

本校では例年十一月頃に、大型トラクターによる牽引免許試験を、岡山県運転免許試験場（岡山市郡）において受験しております。卒業生の皆様で、免許の取得を御希望の方は若干名であればお受けできますので、九月末日までに教務課まで御連絡ください。なお、受験及び免許交付に必要な経費は、およそ四千円程度となります。